

## ◆ 平成28年度 活動報告シート ◆

団体名：桶川みどりの会

19A-39

代表者：代表 小川 佐

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

林内の整備活動は、機器により作業効率は格段に進歩するも、林内に積み置く除間伐材の枝材は粉碎処理半ば、幹材に至っては利用目的が見当たらず林内で朽ちるのを待つのが現状でした。



—森のつどい—での受付風景—

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

10か所・2.94hrの「市民緑地」等がフィールドです。

林内活動は定例：月2回、スポット：約50回・400名が参加。

**冬季間**：枯損木処理、林床の落葉カキ、

**春季間**：落葉カキで林床植物の観察、苗木の補植、

**夏季間**：草刈・枯損木除伐、**秋季間**：枯損木除伐・枝打ち。

主な啓蒙活動 5月：「桶川春のふれあいフェスタ」

11月：「桶川市民まつり」、「森のつどい」（当会主催）

3月：「探検！・発見！・雑木林で遊ぼう」

「森のつどい」は環境課と共催で「子供の森」を会場に100名前後の参加で「落葉カキ」、市長を交えての「植樹祭」や竹工作・竹カップで「トン汁」を食べ、林内で目一杯遊び家族皆で楽しい時を過ごしました。



—薪作り—

### 3. 活動の成果

今回、薪割機・竹切断機関連の機材で、最終的な林内の整備方法に目標が出来ました。

又、大きさの違うテントがお願い出来たことも啓蒙活動に大きな力となりました。

幹材は薪に商品化し、枝材の粉碎処理と同時進行で整備作業が大きく前進、林内の景観が一新出来そうです。

会員は現在22名、その日の活動が目に見えた成果となり、活動の喜び・楽しさを実感しています。



—整備作業が進んだ林内で—

### 4. 今後に残された課題

1. 市内の里山は、周辺の開発で面積が狭隘化しており20m位の老齢高木が道路・隣地の境界から大きく枝をはみ出し近隣との係わりが大変難しくなってきました。

林内活動での完結が難しく、業者の協力を含めた対応が必要になってきています。

2. 竹・笹・常緑樹・枯木の除伐を行えば、そこには樹木がまばらな皆伐のような空間が出現します。豊かな雑木林の再現に、全面植樹や部分植樹を行い豊かな里山に再生できればと夢見ています。

3. 除伐や間伐材の有効活用が出来ていません。自然再生エネルギーに活用出来ないか検討課題です。

4. 地域が必要とする活動地を新たに開拓して行きます。